

# 「夏休みセミのぬけがら調査」結果報告

船橋市環境保全課

## 1. 目的

夏の代表的な昆虫であるセミ(のぬけがら)を調べることにより、身近な自然への関心を深め、自然環境保全思想の醸成をはかる。

## 2. 調査

(1)開催日時 8月22日(日) 9時から15時30分 天候晴れ時々曇り

(2)会場

集合、説明、解散 塚田公民館(船橋市前貝塚町601-1) 438-2610

調査地点 県立行田公園(西側)

(3)概要

セミの生態や調査方法について学んだ後、グループごとに行田公園でセミのぬけがらを採取した。公民館に戻り、昼食後、ぬけがらの同定を行った。さらに、結果をグループごとにまとめ発表した。

(4)スケジュール

8:45 受付

9:10 オリエンテーション

主催者挨拶

講師紹介

班別自己紹介(約10分)

調査方法解説(約30分) 講師:関さん 別紙「調査の手引き」

10:15 公園へ移動

10:30 グループ別に調査実施(約1時間)、別添資料2のとおり

11:45 公民館に移動、到着後昼食

13:00 分類方法について 講師:伊藤さん

その後、グループ別に分類、結果のまとめ。

14:45 発表会(結果発表、質疑応答、評価)

15:30 解散

## 3. 参加者

小学校3年生以上の参加者40名および講師10名の50名。

## 4. 講師

10名、船橋自然環境調査の市民調査員

## 5. 結果、感想、質疑応答、評価

### (1) 結果

全部で、3,657 個のぬけがらを集め、種の同定を行ったところ、アブラゼミが2283個と最も多く、次いでミンミンゼミ445個、ツクツクボウシ13個、ヒグラシ6個の4種類のセミを確認した。なお、触角がとれ、不明のセミが910個あった。

これを4年前の船橋市の調査結果と比較すると、ぬけがらの数はほぼ同数であったが、ニイニイゼミ、クマゼミは確認できなかった。

表 - 1 班別調査結果

	アブラゼミ	ミンミンゼミ	ニイニイゼミ	ツクツクボウシ	ヒグラシ	クマゼミ	不明	計
1班	909	102	0	8	3	0	0	1022
2班	435	139	0	0	3	0	500	1077
3班	387	98	0	2	0	0	149	636
4班	337	86	0	1	0	0	52	476
5班	215	20	0	2	0	0	209	446
計	2283	445	0	13	6	0	910	3657
4年前	2990	681	19	45	3	1		3739

### (2) 感想

- ・ サルスベリにはぬけがらがなかった。
- ・ 数十個ついた樹があった。

### (3) 質疑応答

Q1: セミはどれくらい生きるのか？

A1: セミの生態についてはよく分からない部分が多い。

アブラゼミやミンミンゼミなどは、夏に樹皮等に産卵し、翌年の梅雨頃にふ化し、土にもぐる。幼虫として5 - 7年程度土の中で過ごした後、早いものは7月ころから羽化し成虫となる。成虫となって1 - 2週間生きるとされている。

### (4) 評価

一般に、セミの種類が多いほど自然度が高いとされている。今回の結果、4種類のセミが確認され、行田公園は都市化された地区に残された貴重な公園(樹林地)といえる。

地球温暖化の指標となるクマゼミのぬけがらが確認できなかったが、今年の夏も鳴き声の情報があり、今後も注意深く見守る必要がある。

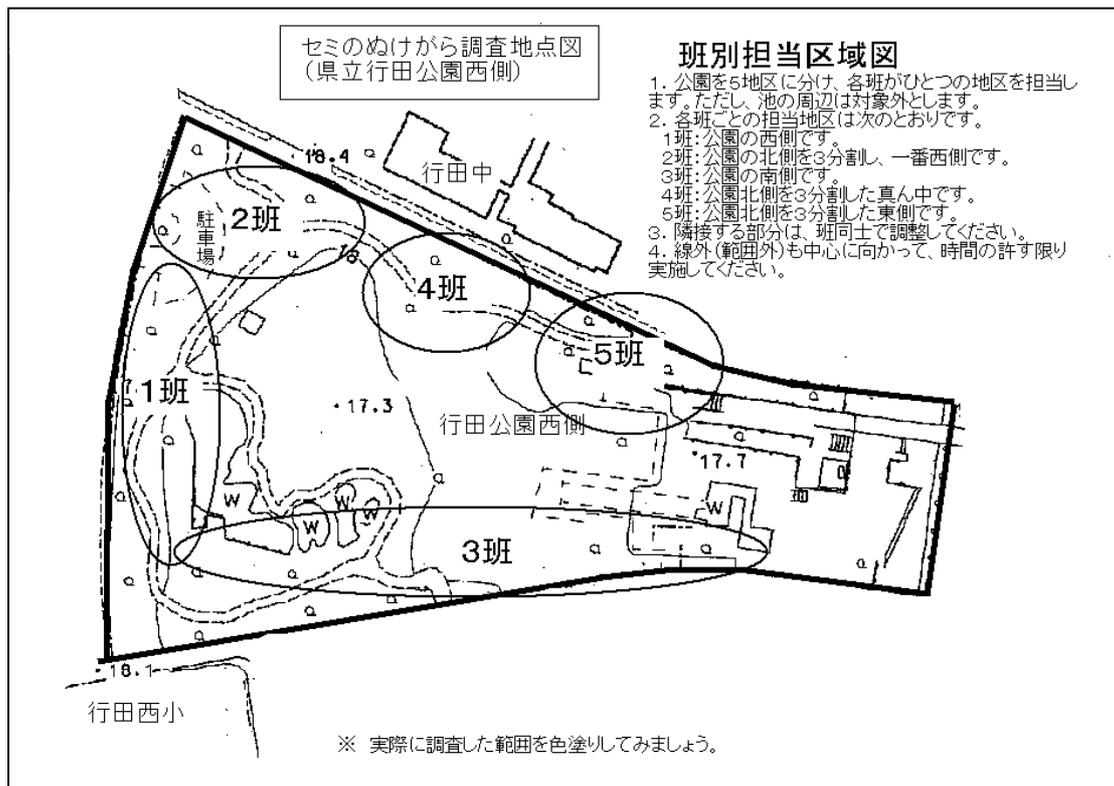
### 6. その他

(1)取材 ふなばし朝日、ふなばし読売、地域新聞の取材があった。また、ケーブルテレビのテレビ撮影があり、8月28日から9月3日の間、「ふなばしCITY NEWS」で放映される。

(別添資料1) 参加者と講師(行田公園にて)



(別添資料2) 調査地点図



(資料3) 調査風景



調査方法の説明



行田公園に到着



ぬけがらを探す子どもたち



集められたぬけがら



虫眼鏡を使い分類している



種類ごとに分類されたぬけがら